



おにキタのもり

「泊まる」からはじまる、地域活性化ストーリー

私たちは、通称「いばきた」と呼ばれ親しまれている”茨木市北部地域”を元気にする案を提案する。人口減少や高齢化が急速に進行している近郊里山地域において、閉鎖が予定されている市施設跡地を活用し、自然豊かなエリアならではの体験ができる宿泊施設・地域振興拠点を計画する。行ってみたい、泊まってみたいと思わせる魅力的な施設計画により市内外からの人の流れを呼び込み、地域経済の活性化への波及を期待する。

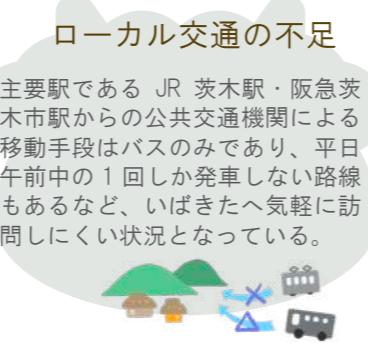
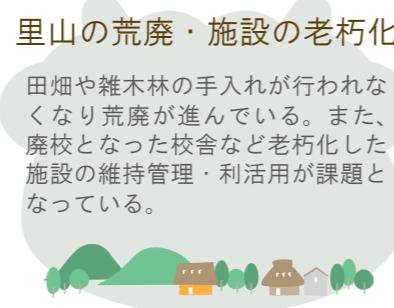
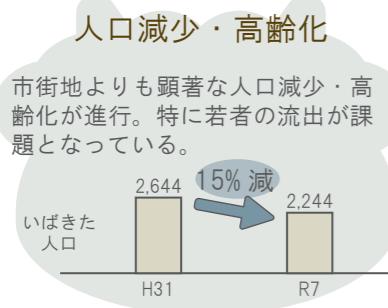
茨木市北部地域「いばきた」とは？

茨木市は大阪市と京都市の中間に位置し、大阪府で8番目に多い人口約28万人を有する市である。JR京都線・阪急京都線の2路線の鉄道に加えて、名神高速道路・新名神高速道路をはじめとした道路網が整備されており、交通の利便性が高い都市である。また、2023年11月に茨木市文化・子育て複合施設「おにクリ」が開館するなど、市役所周辺の中心地は開発が進み賑わいが生まれている。

しかし、茨木市全体人口の約 99%が市の南半分の地域に集中しており、北部地域はわずか約 1% の人口が暮らすにとどまる。茨木市北部地域は市街地からほど近い立地にあるにも関わらず、里山や山林、田園風景が広がる農村地域となっている。キャンプやハイキングなどのアウトドア活動に適したエリアであり、日本一の長さのつり橋を有する「ダムパークいばきた」、いも掘りやいちご狩り体験ができる農園や農産物直売所、カフェといったローカルライフを感じられる公園・小規模施設・店舗が点在している。

いばきたが直面する3つの課題

豊かな自然資産を有するいばきたエリアだが、次のような課題に直面している。



いばきたエリアを元気にする提案 “おにキタのもり”

これらの課題を解決すべく、いばきたエリアを活性化するための施策として私たちが提案するのは、宿泊施設・地域振興拠点「おにキタのもり」である。

いばきたの中心につくる環境配慮型複合宿泊施設

鉄道路線や高速道路が利用可能で、市外からのアクセス性の良いいばきたの立地条件を活かし、「いばきた」エリアの中心に位置する敷地に、里山の暮らしや農業体験ができる多群型宿泊施設、地元特産品の購入ができる店舗、バスロータリーの機能を有した複合型施設を計画する。

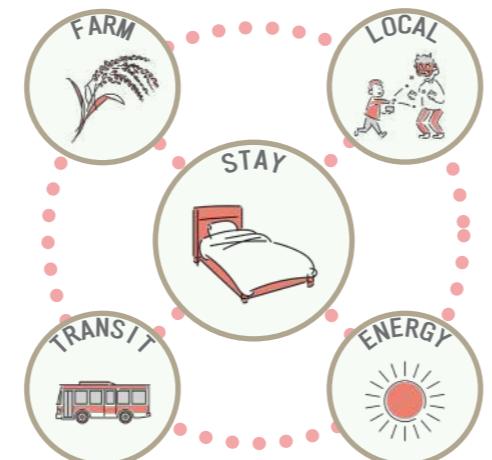
いばきたエリアの外から訪れる人を増やすことで地域の
地域経済の活性化に繋がることを期待している。

施設運営に必要な電力はすべて太陽光発電等の自然エネルギーでまかなうなど、維持管理のコストを下げる建物とする。また、無人運転EVバスによる最寄り駅までの送迎、VRキャラクターによる施設案内など、持続可能的に施設運営ができるような取り組みを盛り込んでいる。

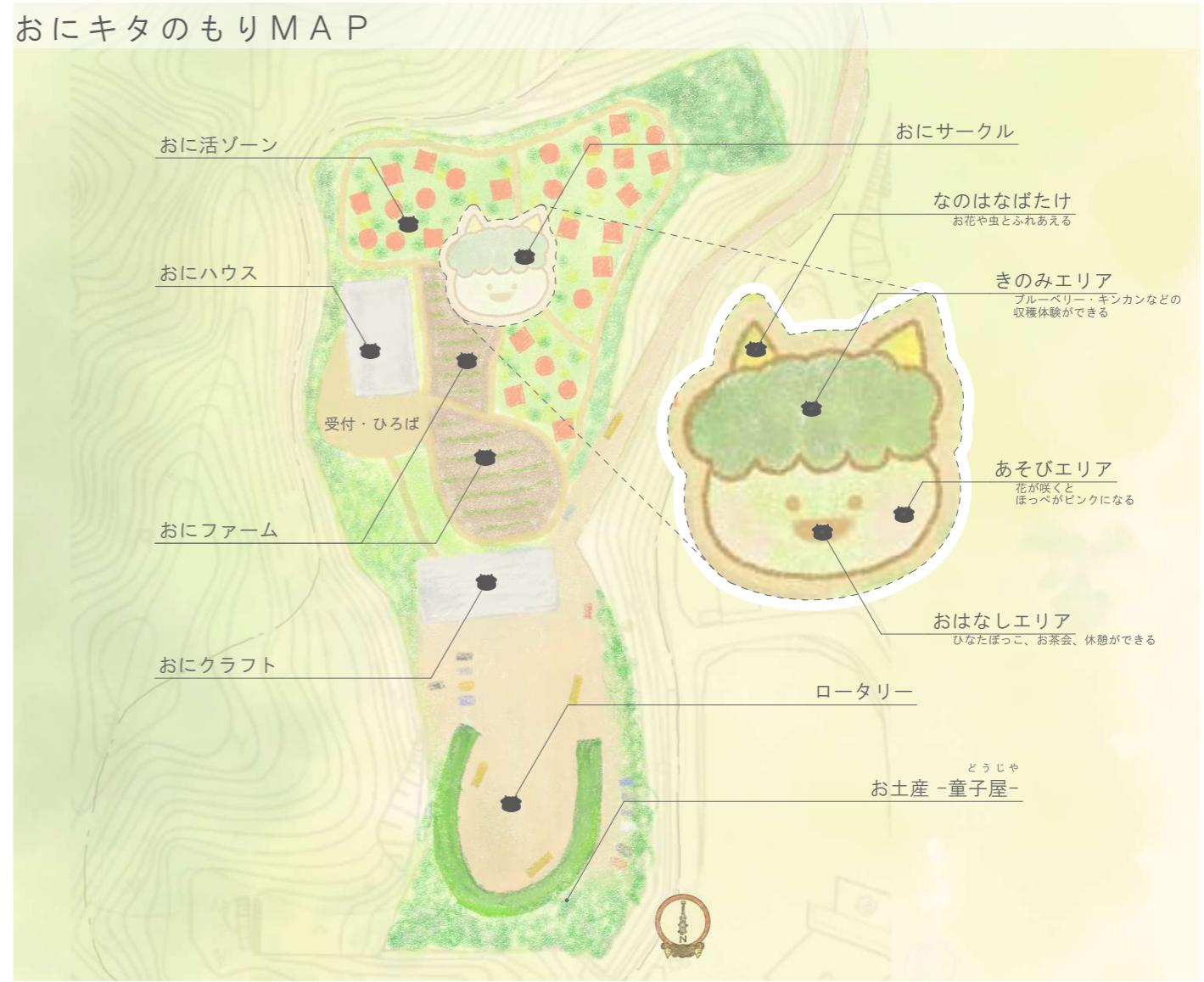
閉鎖する市施設敷地の利活用

敷地は茨木市泉原にある「茨木里山センター」を想定した

茨木里山センターは廃校となった分校を活用した木工教室やバーベキューなどが体験できる施設であるが、施設の老朽化が著しいため 2026 年 3 月末をもって閉鎖することが決まっている。自然との触れ合いや里山保全活動のボランティア拠点といった既存施設が有している機能を継承しながら、いばきた地域活性化の発信地としてより一層の敷地の利活用を図る提案とした。



おにキタのもりMAP



ファミリー向け宿泊モデルプラン（1泊2日）

